

令和3年1月20日

南の風 381

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

いよいよ勝負の4Qとなります。得点はENEOS64対63トヨタです。

流れはENEOSに傾きかけています。トヨタがどう挽回するかがポイントです。

両チームハーフコートマンツーマンで始まる。ENEOSは、開始早々岡本がドリブルスクリーンから左45°からドライブインして得点する。トヨタは河村がローポストへフラッシュしてシュートファウルをもらい、フリースローを2本沈める。その直後、ボールを運んだ宮崎がドリブルをスローダウンすると見せかけ、スペースが空いたと見るや再加速してドライブインで攻めファウルを誘った。フリースローを2本とも決める。トヨタは河村をエルボーに配置し一旦外でボールを受け、中をクリアにして安間がドライブでペイントに切り込むが、中村の身体を張ったヘルプに思わずチャージングとなってしまう。中村のコンタクトを厭わない素晴らしいディフェンスであった。さらに中村は得意の左のパワードリブルからペイントにドライブインして得点する。流れを変えたいトヨタだが、ポストから外へのパスがカットされターンオーバーとなり、トランジションでボールを運んだ宮崎がインサイドアウトのドリブルから一気にゴールを目指すと三好がファウルをしてしまう。たまたまトヨタベンチはタイムアウト。宮崎がフリースロー2本とも決めてスコアが、ENEOS72対65トヨタとなりこのゲームENEOSが最大のリードとなる。ここでトヨタは新人の平下を投入すると、その平下がボールをもらおうと右ウイングの3Pラインを確認して冷静に3Pを決める。新人とは思えぬ落ち着いたプレーであった。

しかしENEOSは宮崎が冷静にスペースを見つけ、再びドライブインして得点し流れを相手に渡さない。トヨタはハイピックを仕掛けたエブリンが一旦外に出てサイドボールを受け、スペースが広くはなかったが、力強いドライブインで得点を決める。一進一退の中、3Pラインの外のトップの位置から、岡本と中田でハイピックを仕掛け、岡本がリジェクトして中田のダイブに合わせる頭脳的プレーでENEOSが得点する。他の3人が完全に左サイドによってスペースを空けたことも見逃せない。

この後トヨタのシュートが落ちた瞬間、ENEOSの岡本が速攻を見せノーマークになると、たまたまエブリンがファウル。このファウルがアンスポーツマンライクファウルかどうかを巡って、IRSで確認する。その結果ノーマルファウルとなる。トヨタはオフェンスのリズムが取れず苦しい展開となる。ENEOS岡本のドライブからのシュートに対して、長岡がファウルしたところでトヨタは3回目のタイムアウトを請求する。(残り時間5分43秒)岡本がフリースロー2本決めて、78対70でENEOS8点リード。

重たい空気の中、エブリンが右45°からドライブシュートを決める。ENEOSは宮崎が得意のハイピックを使ってスピードに乗ったドライブシュートを決め返す。

その後トヨタは安間のジャンプシュートやドライブシュート、ステファニーのポストでのターンシュート、平下からのループパスを受けた長岡のゴール下シュートが決まる。ディフェンスもゾーンにチェンジして何とか流れの打開を試みる。しかし、ENEOSは冷静に岡本が3Pを沈める。またドリブルスクリーンから宮崎の高速ドライブも決まった。このプレーで安間が5ファウルとなり勝敗が決した。

ENEOSが87対80で、8年連続25回目の皇后杯を手にした。